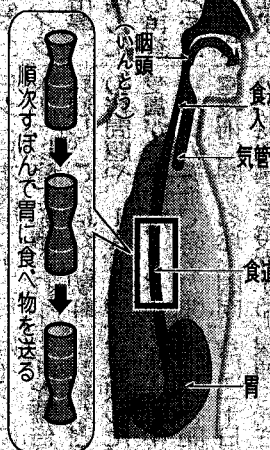


本期の食道がん患者が食物をのみ込めるようにすると同時に、患部を温めるという人工食道を、東北大加齢医学研究所の山家智之教授（人工臓器学）などのグループが二十四日まで公開した。

人工食道にのみ込み機能

山陰 東北大開発 温熱でがん抑制も
 05.11.25 中央



物が詰まるトラブルが起きは稀だ（せんだう）運動の盛るといわれる。切開手術の肉側を高分子で覆った人工食道を開発した人工食道機能を持つ。これを回遊でが不要で、内視鏡を使わずに、食べ物の通りを良くし、電氣を使わずに温熱療法が可能だ。電氣も付加、がんの進展を抑制することも可能という。

取付は簡単。新開発の人工食道は電氣を使った実験に成功、耐久性を高め、味を流す部分の直径が、膵臓のヒトへの臨床応用を可能にする。山家教授は、順次電氣を流すことで、胆道尿管の閉塞を防止し、食べ物を胃へと送り出す仕組みの応用も期待できると話している。

がんの食道がんは、食道の内部に金属製の人工食道を挿入するが、食